

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 31 年 2 月 10 日 13 時 25 分 ~ 15 時 05 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 51 問で解答時間は正味 1 時間 40 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
 選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、	
101	a	b	c	d	e	
			↓			
101	a	b	c	d	●	

- 1 医師の職業倫理に反するのはどれか。
 - a 他の医師の不適切な医療行為に対して忠告する。
 - b 患者からのセカンドオピニオンの求めに応じる。
 - c 認定を受けた専門医資格をホームページに掲載する。
 - d 自身の業務に関係のない患者の電子カルテを閲覧する。
 - e 判断能力のない患者の利益擁護者に病状や治療内容を説明する。

- 2 社会保障制度について正しいのはどれか。
 - a 診療録の保存義務期間は終診時から2年間である。
 - b 国民健康保険組合の被保険者数は6千万人より多い。
 - c 国民医療費は2005年からの10年間で3倍に増加した。
 - d 介護保険第1号被保険者数は第2号被保険者数より多い。
 - e 結核患者の医療費の公費負担は感染症法に規定されている。

- 3 医薬品の有効性・安全性評価のうち、製造販売前の最終段階で実施するのはどれか。
 - a 第Ⅰ相試験
 - b 第Ⅱ相試験
 - c 第Ⅲ相試験
 - d 第Ⅳ相試験
 - e 非臨床試験

- 4 医療安全について正しいのはどれか。
- a 医療従事者が過失なく行動すれば事故は起きない。
 - b ヒヤリハット事例の報告が少ない病院は事故が少ない。
 - c 複数の医療従事者が医療行為での確認を行うと事故が増加する。
 - d 事故を起こした医療従事者の責任追及が再発予防に必須である。
 - e 医療従事者間の良好なコミュニケーションは事故防止に有用である。
- 5 妊娠による母体の生理的変化について正しいのはどれか。
- a 血圧は上昇する。
 - b 循環血液量は減少する。
 - c 機能的残気量は減少する。
 - d 末梢血の白血球数は減少する。
 - e インスリン感受性は亢進する。
- 6 眼の加齢による調節力の低下に関与するのはどれか。
- a 角膜
 - b 虹彩
 - c 水晶体
 - d 硝子体
 - e 網膜

7 コミュニケーションツールの一つである SBAR (Situation, Background, Assessment, Recommendation) に基づいて、研修医が指導医に担当患者の病状を報告している。

研修医：「担当の患者さんの状態について報告と相談をさせてください」

指導医：「どうぞ」

研修医：「78歳の女性で、①昨日大腿骨頸部骨折に対する手術を行い、維持輸液を継続しています。 ②本日明け方から息苦しさを訴えています」

指導医：「患者さんの状態はどうですか」

研修医：「③SpO₂ はルームエアーで 92%、両側で coarse crackles を聴取し、心不全発症の可能性を疑います。 ④まずは酸素投与を開始すべきと考えます」

指導医：「分かりました。⑤今から私と一緒に患者さんの病状を確認しましょう」

SBAR の「R」に相当するのは下線のうちどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

8 聴診所見と呼吸器疾患の組合せで誤っているのはどれか。

- a stridor ————— 肺サルコイドーシス
- b wheezes ————— 喘 息
- c friction rub ————— 結核性胸膜炎
- d fine crackles ————— 間質性肺炎
- e coarse crackles ————— 細菌性肺炎

- 9 双極性障害でみられる思考障害はどれか。
- a 連合弛緩
 - b 減裂思考
 - c 思考途絶
 - d 言語新作
 - e 観念奔逸
- 10 妊娠中の薬物療法の原則について正しいのはどれか。
- a 多剤併用はできる限り避ける。
 - b NSAIDs は妊娠後期であれば投与できる。
 - c 抗菌薬としてキノロン系が推奨されている。
 - d 妊娠判明時には服用中の薬剤を一旦中止させる。
 - e 妊娠 4 週未満は薬剤による催奇形性の可能性が高くなる。
- 11 慢性疼痛患者への共感を示す言葉として、適切なのはどれか。
- a 「その痛みはつらいですね」
 - b 「我慢できる痛みなら大丈夫です」
 - c 「痛みを受け入れることが大事です」
 - d 「自分はまだ強い痛みがありますよ」
 - e 「これくらいの痛みはよくあることですよ」

- 12 感染症が疑われている患者のバイタルサインを示す。
意識レベル GCS 15。体温 39.2℃。脈拍 112/分、整。血圧 92/50 mmHg。呼吸数 26/分。
quick SOFA〈Sequential Organ Failure Assessment〉スコアはどれか。
- a 0点
 - b 1点
 - c 2点
 - d 3点
 - e 4点
- 13 II音の奇異性分裂をきたすのはどれか。
- a 動脈管開存症
 - b 肺動脈弁狭窄症
 - c 心室中隔欠損症
 - d 心房中隔欠損症
 - e 完全左脚ブロック
- 14 高度な門脈圧亢進を伴う肝硬変患者で認められないのはどれか。
- a 下腿の浮腫
 - b Roving 徴候
 - c 腹壁静脈の怒張
 - d Traube 三角の濁音
 - e 濁音界の位置移動〈shifting dullness〉

- 15 脊柱側弯症の検診で体幹を前屈させて観察するのはどれか。
- a 背筋力
 - b 肋骨隆起
 - c 呼吸障害
 - d 脊椎の柔軟性
 - e 下肢への放散痛
- 16 MRI でガドリニウム造影剤を使用する際に、最も注意すべき患者背景はどれか。
- a 脳卒中
 - b 心房細動
 - c 間質性肺炎
 - d 頭蓋内圧亢進症
 - e 人工透析中の慢性腎不全
- 17 血液培養で菌血症の診断の感度を下げるのはどれか。
- a 検体を冷蔵保存する。
 - b 検体採取の回数を増やす。
 - c 抗菌薬を投与する前に採取する。
 - d 異なる部位から2セット採取する。
 - e 好気性ボトルより先に嫌気性ボトルに分注する。

- 18 うっ血乳頭に随伴する初期症状はどれか。
- a 眼 痛
 - b 頭 痛
 - c 眼精疲労
 - d 視力低下
 - e 求心性視野狭窄
- 19 社交不安障害の患者の訴えとして特徴的なのはどれか。
- a 「怖いので飛行機には乗れない」
 - b 「世間の人々から嫌われている」
 - c 「明日にも何か大変なことが起こる」
 - d 「人ごみや公共の場所に行くと不安になる」
 - e 「人前では緊張して思うように話ができない」
- 20 微小変化型ネフローゼ症候群について正しいのはどれか。
- a 副腎皮質ステロイドが著効する。
 - b 再発することはまれである。
 - c 尿蛋白の選択性は低い。
 - d 低補体血症を認める。
 - e 緩徐に発症する。

21 輸血開始1時間後に、発熱、悪寒および呼吸困難が出現し、血圧が低下した。

可能性が低いのはどれか。

- a 輸血関連急性肺障害
- b 異型輸血による溶血
- c エンドトキシンショック
- d アナフィラキシーショック
- e 輸血後移植片対宿主病(GVHD)

22 頸部で血管雑音を有する成人患者で考えにくいのはどれか。

- a 頸動脈狭窄
- b 甲状腺機能低下症
- c 高安動脈炎(大動脈炎症候群)
- d 動静脈瘻
- e 貧血

23 急性呼吸不全をきたした成人患者に対して、バッグバルブマスク換気の後には気管挿管を行った。用手的に送気を行い、聴診による気管チューブの位置確認を行ったところ、心窩部が膨隆してきた。装着していたCO₂検出器ではCO₂が検出されなかった。

適切な対応はどれか。

- a 直ちに気管チューブを抜去する。
- b バルーンカフへ空気を追加注入する。
- c 気管チューブへの送気を2分間継続する。
- d 気管チューブを更に3cm挿入して送気する。
- e 気管チューブ内にカテーテルを挿入して吸引する。

- 24 冠動脈疾患リスクを低減する行動として適切でないのはどれか。
- a 禁 煙
 - b 減 塩
 - c 野菜摂取の増加
 - d 長時間労働の回避
 - e トランス脂肪酸摂取の増加
- 25 長期間無月経をきたした女性で注意すべき続発症はどれか。
- a 色素沈着
 - b 骨粗鬆症
 - c 子宮内膜症
 - d 末梢神経障害
 - e 月経前症候群
- 26 身近な人との死別に伴う悲嘆反応について誤っているのはどれか。
- a 成人特有の反応である。
 - b 大部分は時間と共に回復していく。
 - c 提供されるケアをグリーフケアという。
 - d 心理的影響だけでなく身体的影響も生じる。
 - e 長期化した場合はうつ病との鑑別が必要となる。

27 15歳の男子。不登校を主訴に母親と来院した。高校受験を控えた中学3年生。

この2か月、朝起きることができないため学校に行っていない。午前中は頭痛、腹痛などの症状を訴え、ベッドの中にいるが、夕方から夜になると元気になり、深夜遅くまでゲームや勉強をしている。学校から病気の可能性を確認するために医療機関を受診するように言われて受診した。母親は「本人が勉強嫌いで学校をさぼっている。ゲームばかりして夜更かしするので朝起きられない」と感情的に主張し、その隣で患者はうつむいて黙っている。

まず行うべきこととして適切なのはどれか。

- a 患者に登校を促す。
- b 患者の話を傾聴する。
- c 患者に睡眠薬を処方する。
- d 母親に抗不安薬を処方する。
- e 母親の対応を厳しく注意する。

28 50歳の男性。肺腺癌のため通院中である。1年前に咳嗽が出現し、6か月前に精査を行い、切除不能のⅢ期肺腺癌と診断された。放射線治療と抗癌化学療法による標準治療を行った。新たな転移は認めないが、腫瘍の大きさが増大している。治験参加施設として治験への参加を提案することになった。

患者への説明として適切でないのはどれか。

- a 「ご家族と相談されても結構です」
- b 「途中で同意の撤回はできません」
- c 「参加されるか、されないかは自由です」
- d 「十分理解し、納得されてから参加してください」
- e 「参加されなくても不利益が生じることはありません」

29 70歳の男性。胸部異常陰影の精査のため入院した。かかりつけ医で撮られた胸部エックス線写真で、右肺に悪性腫瘍と考えられる腫瘤性病変を認めたため、精査目的で紹介されて入院した。2年前から歩き方が小刻みになり、しばしば転倒するようになったという。意識は清明。脈拍 60/分、整。血圧 126/78 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。神経診察では、両側性に振戦および筋強剛、動作緩慢を認めるが、姿勢反射は保たれており Hoehn & Yahr の分類はⅡ度である。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは 26 点(30 点満点)である。

入院時の転倒予防対策として適切なのはどれか。

- a 昼間に睡眠薬を用いる。
- b ベッド上で身体拘束を行う。
- c 病室のドアに外から鍵をかける。
- d ベッド周囲に離床センサーを設置する。
- e 家族が終日付き添うことを入院の条件とする。

30 78歳の女性。全身の皮疹を主訴に来院した。3週間前から両側大腿に痒痒を伴う皮疹が出現し、躯幹と四肢に拡大してきたため受診した。生検組織の蛍光抗体直接法所見にて表皮基底膜部にIgGとC3の線状沈着を認めた。抗BP180抗体421 U/mL(基準9.0未満)。大腿の写真(別冊No. 1)を別に示す。

認められないのはどれか。

- a 血 疱
- b 紅 斑
- c 水 疱
- d 囊 腫
- e びらん

別 冊
No. 1

31 66歳の男性。意識障害とけいれんのため救急車で搬入された。3年前から頭部外傷後てんかんで抗けいれん薬の内服治療を受けていた。この1年間はけいれん発作がなかったため、2週間前から服薬していなかったところ、外出先で突然、強直間代けいれんを起こし、居合わせた人が救急車を要請した。発症から10分後の救急隊接触時には間代けいれんがわずかにあったが、救急搬送中に消失した。搬入時、けいれんを認めないが、意識レベルはJCS I-3。体温36.9℃。心拍数92/分、整。血圧140/90 mmHg。呼吸数16/分。SpO₂ 99%(マスク6L/分酸素投与下)。処置室でバイタルサインを測定し、静脈路を確保し生理食塩液の輸液を開始した直後に、強直間代けいれんが再発した。

直ちに投与すべきなのはどれか。

- a モルヒネ
- b ジアゼパム
- c ペンタゾシン
- d 重炭酸ナトリウム
- e グルコン酸カルシウム

32 大型バスを含む多重衝突交通事故により多数傷病者が発生した。救急隊に同行した医師が、救出された傷病者の現場救護所への搬送優先順位を決定することになった。現場にはすでに30名ほどの傷病者がおり、救出作業が続いている。救護所での医療資源は十分揃っていないという情報である。

次の傷病者のうち、救護所への搬送を最も優先すべきなのはどれか。

- a 歩行できず、呼吸数36/分である。
- b 歩行できるが、頭部から出血している。
- c 歩行できるが、強い腹痛を訴えている。
- d 歩行できるが、肘関節部に開放骨折を認め創が汚染している。
- e 開放性脳損傷があり、用手気道確保を行ったが呼吸を認めない。

33 38歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠34週に心窩部痛および悪心を主訴に来院した。既往歴に特記すべきことはなく、これまでの妊婦健康診査で異常は指摘されていない。胎動は自覚しており、性器出血は認められない。体温36.5℃。脈拍100/分、整。血圧140/90 mmHg。心窩部に圧痛を認める。子宮は軟で圧痛を認めない。下腿に浮腫を認める。

優先度の低い検査はどれか。

- a 血液検査
- b 血液生化学検査
- c 腹部超音波検査
- d 上部消化管内視鏡検査
- e ノンストレステスト(NST)

34 35歳の男性。路上に倒れているところを通行人に発見され、救急車で搬入された。意識レベルはJCSⅡ-30。体温36.0℃。心拍数104/分、整。血圧156/88 mmHg。呼吸数16/分。SpO₂99%(マスク5L/分酸素投与下)。対光反射は正常。皮膚は湿潤しており、体表に明らかな外傷を認めない。

まず行うべき検査はどれか。

- a 血糖測定
- b 頭部単純CT
- c 動脈血ガス分析
- d 胸部エックス線撮影
- e 尿の薬物スクリーニング

35 62歳の女性。めまいを主訴に来院した。今朝、起床時に突然ぐるぐる回るめまいを自覚した。しばらく横になっていると約2分でめまいは落ち着いた。難聴や耳鳴の自覚はなかった。午後、洗濯物を干そうとして上を向いたところ、再び同様のめまいが出現した。軽度の悪心を伴ったが、安静により約1分で症状は消失した。既往歴と家族歴とに特記すべきことはない。来院時、意識は清明。バイタルサインに異常を認めない。神経診察に異常を認めない。血液所見に異常を認めない。

病変部位はどれか。

- a 蝸牛
- b 半規管
- c 内耳道
- d 内リンパ嚢
- e 前庭皮質野

36 69歳の男性。排尿困難を主訴に来院した。2年前から尿線が細いことに気付いていたが年齢のためと考えていた。3か月前から排尿困難を伴うようになったため受診した。直腸指診で前立腺は腫大し、表面平滑、弾性硬で硬結を認めない。尿所見および血液生化学所見に異常を認めない。PSA 1.8 ng/mL(基準 4.0 以下)。腹部超音波検査で前立腺肥大(40 mL)を認めた。残尿量は 100 mL であった。

適切な治療薬はどれか。

- a α_1 遮断薬
- b アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬
- c カルシウム拮抗薬
- d 抗コリン薬
- e β_3 刺激薬

37 4歳の男児。繰り返す嘔吐を心配した母親に連れられて来院した。1か月前から時々起床後に突然の嘔吐がみられていた。1週間前から毎日起床後に嘔吐がみられるようになり、今朝から呼びかけに対する反応がやや鈍くなったため受診した。下痢や体重の減少は認めない。嘔吐の回数が増えるにつれ、転びやすくなったとのことである。意識レベルはJCS I-1。体温 36.7℃。心拍数 100/分、整。血圧 80/50 mmHg。呼吸数 36/分。SpO₂ 98% (room air)。毛細血管再充満時間 2秒未満。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音に異常を認めない。腱反射に異常を認めない。坐位で体幹動揺を認める。指鼻試験は拙劣で、眼振と変換運動障害を認める。眼底鏡による観察で両側うっ血乳頭を認める。

次に行う検査として適切なのはどれか。

- a 脳波
- b 腰椎穿刺
- c 血液培養
- d 頭部単純CT
- e 腹部単純エックス線

38 16歳の女子。健診で尿潜血陽性を指摘され来院した。来院時尿所見：黄褐色で軽度混濁、比重 1.020、pH 8.0、蛋白(±)、糖(-)、潜血(±)、沈渣は赤血球 1未満/HPF、白血球 5～9/HPF、扁平上皮細胞 5～9/HPF、硝子円柱 1～4/WF〈全視野〉。

尿所見の評価について正しいのはどれか。

- a 膿尿はない。
- b 血尿はない。
- c 希釈尿である。
- d 酸性尿である。
- e 病的円柱がある。

39 66歳の男性。5年前から前立腺癌で治療中である。半年前に腰椎と右肋骨に転移が確認され、最近、腰痛を自覚するようになった。疼痛以外の自覚症状はない。

疼痛緩和のために、まず投与すべきなのはどれか。

- a コデイン
- b モルヒネ
- c フェンタニル
- d オキシコドン
- e アセトアミノフェン

40 45歳の男性。3か月前から倦怠感と息切れを自覚するようになった。頸部にしこりを触れることに気が付き、心配になって受診した。既往歴と家族歴に特記すべきことはない。職業は会社員。妻と子ども2人と同居している。精査の結果、悪性リンパ腫と診断し、抗腫化学療法が必要と判断した。患者は「最近転職したばかりで、今後の仕事や会社との関係についてとても不安なので、利用できる支援制度について相談したい」と言う。患者への説明にあたり他の職員の同席を求めることにした。

同席者として最も適切なのはどれか。

- a 看護師
- b 薬剤師
- c 事務職員
- d 同僚の医師
- e 医療ソーシャルワーカー

- 41 63歳の女性。7月末の正午過ぎ、救急外来に日本語の話せない外国人女性が救急車で搬入された。救急車で同行した配偶者(外国人)が病院の臨床修練外国医師に話した内容と患者の所見をまとめた診療記録を示す。

The patient felt faint while walking on the beach. She then sat under a shade where she vomited. She complained of headache and dizziness before fainting. Her face turned red and her breathing became rapid.

Physical examination

- Body temperature : 39.2℃.
- Conscious level : Glasgow Coma Scale E3 V4 M5.
- Skin : generally hot, flushed and dry.
- Heart rate : 140/min, regular.
Blood pressure : 86/60 mmHg.
Respiratory rate : 24/min, shallow.
- No hemiplegia.
- Muscle spasms in limbs.

まず行うべきなのはどれか。

- a Chest CT
- b Body cooling
- c Oral water intake
- d Tracheal intubation
- e Antibiotics infusion

次の文を読み、42、43の問いに答えよ。

81歳の女性。倦怠感と食欲不振を主訴に来院した。

現病歴 : 4年前に子宮頸癌と診断され、放射線治療を受けたが、1年前に再発した。患者の希望により追加の治療は行わず経過観察とされていた。3か月前から不正性器出血がみられ、食欲不振が出現した。また、肛門周囲の痛みも出現し、オピオイドを内服していた。1か月前から徐々に身の回りのことができなくなってきた。支えがあればポータブルトイレに移乗できたが、ふらつきが強く徐々に難しくなっており、現在はオムツ内排泄の状態である。倦怠感が強く、食欲も低下し、水分のみ摂取可能である。悪心はあるが、嘔吐はない。

生活歴 : 喫煙歴はなく、飲酒は機会飲酒。夫(84歳)と2人暮らし。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。身長153cm、体重42kg。体温36.5℃。脈拍92/分、整。血圧128/76mmHg。呼吸数16/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜に軽度の貧血を認める。眼球結膜に黄染を認めない。口腔内に異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。両側下腿に中等度の圧痕性浮腫を認める。

検査所見 : 尿はオムツ内排泄のため検査できず。血液所見：赤血球348万、Hb10.4g/dL、Ht32%、白血球8,800、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白6.3g/dL、アルブミン2.0g/dL、総ビリルビン0.6mg/dL、AST13U/L、ALT9U/L、LD182U/L(基準176~353)、 γ -GTP12U/L(基準8~50)、CK42U/L(基準30~140)、尿素窒素86mg/dL、クレアチニン6.1mg/dL、尿酸10.7mg/dL、血糖104mg/dL、Na131mEq/L、K5.3mEq/L、Cl101mEq/L、Ca7.6mg/dL。心電図で異常を認めない。胸部エックス線写真で心胸郭比53%。

42 次に行うべきなのはどれか。

- a 膀胱鏡検査
- b 急速大量輸液
- c 排泄性尿路造影
- d 腹部超音波検査
- e カリウム吸着剤の注腸

43 入院し加療を行ったところ、腎機能障害は改善したが、原疾患の進行により患者は終日ベッドに臥床し、ほぼ全ての日常生活動作に介助が必要な状態となった。本人と家族は介護保険の利用を希望している。

退院にあたり行う説明として、正しいのはどれか。

- a 「認定された介護サービスの必要度に応じて保険給付を受けられます」
- b 「申請手続きは都道府県の担当者に代行してもらえます」
- c 「訪問看護は介護保険では利用できません」
- d 「入院中は介護保険の申請ができません」
- e 「手すりの設置は介護保険の適用外です」

次の文を読み、44、45の問いに答えよ。

46歳の女性。腹痛のため救急外来を受診した。

現病歴 : 2日前の起床時から軽度の心窩部痛があった。朝食は普段どおりに食べたが、その後食欲不振と悪心が出現し、昨日の昼食後に嘔吐した。本日、心窩部痛はなくなったが右下腹部痛が出現した。疼痛は食事で増悪しないが、歩くとひびき、疼痛が持続するため救急外来を受診した。悪寒戦慄はなく、下痢や黒色便を認めない。排尿時痛や血尿を認めない。3日前にバーベキューをしたが、同様の症状を呈した人は周りにいない。

既往歴 : 20歳時にクラミジア感染。

生活歴 : 喫煙は20本/日を26年間、飲酒はビールを350 mL/日。初経13歳、月経周期は28日型、整。最終月経は2週間前。不正性器出血はない。

44 救急科の研修医が腹部の診察を行う際の対応として適切なのはどれか。

- a 「腹部の診察は服の上から行います」
- b 「先に婦人科に診察をしてもらいましょう」
- c 「診察の前に腹部のCT検査を受けてもらいます」
- d 「まず私一人で腹部の診察を始めてもよろしいでしょうか」
- e 「腹部の痛いところから触診しますので、痛む場所を教えてください」

現 症 : 意識は清明。身長 154 cm、体重 65 kg。体温 37.6℃。脈拍 92/分、整。血圧 110/62 mmHg。呼吸数 18/分。SpO₂ 99 % (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。腹部は平坦で、肝・脾を触知しない。McBurney 点に圧痛があり、反跳痛を認める。Psoas 徴候は陰性。

検査所見 : 尿所見：異常なし。血液所見：赤血球 394 万、Hb 11.5 g/dL、Ht 36 %、白血球 5,300 (桿状核好中球 6 %、分葉核好中球 56 %、単球 10 %、リンパ球 28 %)、血小板 30 万。血液生化学所見：尿素窒素 12 mg/dL、クレアチニン 0.6 mg/dL、血糖 86 mg/dL、Na 139 mEq/L、K 3.9 mEq/L、Cl 105 mEq/L。CRP 4.0 mg/dL。妊娠反応陰性。心電図、胸部・腹部エックス線写真に異常を認めない。

45 急性虫垂炎の診断のため Alvarado score を使用することとした。点数別の感度・特異度を以下に示す。

項目	点数	合計点	感度	特異度
右下腹部への痛みの移動	1 点	4 点	98 %	30 %
食思不振	1 点	7 点	70 %	70 %
嘔吐	1 点	9 点	30 %	95 %
右下腹部圧痛	2 点			
反跳痛	1 点			
37.3℃以上の発熱	1 点			
白血球数 10,000 以上	1 点			
白血球の左方移動(多核好中球 ≥ 75 %)	1 点			

Alvarado score = 合計点

解釈として正しいのはどれか。

- この時点で虫垂炎と確定診断できる。
- この診断基準の感度と特異度は有病率の影響を受ける。
- 虫垂炎の確定診断のために追加の検査が必要である。
- Alvarado score が高いほど、虫垂炎の重症度が低い。
- Alvarado score が低いほど、確定診断に適している。

次の文を読み、46、47の問いに答えよ。

72歳の男性。左下肢痛を主訴に来院した。

現病歴 : 2年前から500 m程度歩行すると両側下腿に疼痛が出現し、1か月前からは100 m程度の歩行で両側下腿の疼痛を自覚するようになった。しばらく立ち止まってじっとしていると疼痛は軽快するが、足先に冷感としびれが残っていた。昨日、急に左足趾尖の安静時疼痛が出現し、我慢できなくなったため受診した。

既往歴 : 15年前から高血圧症と脂質異常症のため医療機関にかかっていた。投薬を受けていた時期もあるが、60歳の退職後は受診が滞っていた。

生活歴 : 妻と2人暮らし。摂食、排泄および更衣は自立している。喫煙は20本/日を43年間。飲酒は機会飲酒。

現症 : 意識は清明。身長168 cm、体重75 kg。体温36.3℃。脈拍76/分、整。血圧156/88 mmHg(右上肢)。呼吸数20/分。SpO₂ 98%(room air)。頸部と胸腹部に血管雑音を聴取しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。右足に色調変化はないが、左足は暗赤色に変色している。右の後脛骨動脈は触知するが、左では触知しない。

46 外来で足関節上腕血圧比<ABI>を測定するために四肢の収縮期血圧を測定した。この患者の測定値と考えられるのはどれか。

	上肢血圧		下肢血圧	
	右	左	右	左
a	156	158	162	136
b	156	158	162	110
c	156	158	162	48
d	156	158	110	110
e	156	158	110	48

(単位 mmHg)

47 この患者に経皮的血管形成術が施行され、抗血小板療法が開始された。患者の疼痛および冷感は消失し、歩行訓練を行っている。術後3日目に、治療と退院後の計画を立案するための病院内チームが作られることになった。

医師、看護師、薬剤師の他に、チームメンバーとして適切なのはどれか。

- a 理学療法士
- b 言語聴覚士
- c 臨床工学技士
- d 臨床検査技師
- e 診療放射線技師

次の文を読み、48、49の問いに答えよ。

23歳の男性。陰茎の潰瘍を主訴に来院した。

現病歴 : 1週間前に陰茎に潰瘍が出現し、次第に拡大するため受診した。潰瘍部に疼痛はない。頻尿や排尿時痛もない。

既往歴 : 14歳時に肺炎球菌性肺炎。アンピシリン/スルバクタム投与後に血圧低下と全身の皮疹を認めた。

生活歴 : 喫煙は20本/日を3年間。飲酒は機会飲酒。不特定多数の相手と性交渉がある。

現症 : 意識は清明。身長170 cm。体重74 kg。体温36.3℃。脈拍80/分、整。血圧128/68 mmHg。呼吸数12/分。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。神経診察に異常を認めない。下腿に浮腫を認めない。陰茎に潰瘍を認める。

検査所見 : 赤沈32 mm/1時間。血液所見：赤血球418万、Hb 13.3 g/dL、Ht 42%、白血球9,900(桿状核好中球14%、分葉核好中球66%、好酸球2%、好塩基球3%、単球9%、リンパ球6%)、血小板20万。血液生化学所見：総蛋白7.6 g/dL、アルブミン4.2 g/dL、尿素窒素20 mg/dL、クレアチニン1.0 mg/dL、Na 137 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 105 mEq/L。免疫血清学所見：CRP 3.2 mg/dL、抗HIV抗体スクリーニング検査陰性、尿中クラミジア抗原陰性、RPR 32倍(基準1倍未満)、TPHA 80倍未満(基準80倍未満)。

48 潰瘍部の写真(別冊No. 2)を別に示す。

適切な抗菌薬はどれか。

- a セフェム系
- b キノロン系
- c ペニシリン系
- d カルバペネム系
- e テトラサイクリン系

別 冊

No. 2

49 1か月後にトレポネーマ抗体値の上昇を認めた。

今後の治療効果判定に最も有用な検査はどれか。

- a CRP
- b RPR
- c TPHA
- d 赤 沈
- e 白血球数

次の文を読み、50、51の問いに答えよ。

79歳の男性。咳嗽と呼吸困難を主訴に来院した。

現病歴 : 半年前から咳嗽と労作時の息切れを自覚するようになった。市販の鎮咳薬を服用して様子を見ていたが、症状は持続していた。3日前から咳嗽の増加と呼吸困難の悪化とを自覚したため受診した。

既往歴 : 高血圧症。

生活歴 : 喫煙は15本/日を35年間。55歳で禁煙。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 身長162 cm、体重59 kg。体温36.5℃。脈拍68/分、整。血圧140/90 mmHg。呼吸数22/分。SpO₂ 91% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音に異常を認めない。呼吸音は背側下胸部中心にfine cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

検査所見 : 血液所見：赤血球403万、Hb 12.8 g/dL、Ht 31%、白血球7,700、血小板18万。血液生化学所見：AST 24 U/L、ALT 11 U/L、LD 442 U/L (基準176~353)、 γ -GTP 16 U/L、尿素窒素 14 mg/dL、クレアチニン 0.5 mg/dL、尿酸 8.8 mg/dL、Na 141 mEq/L、K 3.9 mEq/L、Cl 105 mEq/L、KL-6 1,300 U/mL (基準500未満)。CRP 0.3 mg/dL。胸部CT(別冊No. 3)を別に示す。

別冊

No. 3

50 診断に有用でないのはどれか。

- a 肺生検
- b 高分解能 CT
- c スパイロメトリ
- d 気管支肺胞洗浄
- e 気道過敏性試験

51 認められる可能性が高いのはどれか。

- a 高 CO₂ 血症
- b 一秒率の低下
- c 肺拡散能低下
- d A-aDO₂ 値の低下
- e 気道過敏性の亢進

